



校訓	主性同
自根協	

R6.3.18発行
文責 光山

校庭の膨らんだ桜のつぼみに春の訪れを感じ、当日の澄み渡るような青空からは、万物の全てが六十一人の卒業生を祝福しているように感じられました。このような良き日に、第七十七回卒業証書授与式を厳肅な雰囲気の中、挙行することができました。今年度から来賓の皆様にもご臨席いただき、卒業生となり、当日は竹崎町長、楠原議員からも心温まるご祝辞をいただき、卒業生の感動も一層大きくなったと思います。また、卒業式の閉式後には、卒業生の「友々旅立ちの時々」の合唱があり、これまで育てていただいた保護者や先生、そして何よりも友への感謝の気持ちを込めて心に残る歌声を響かせてくれました。以下、式辞で話した内容を一部紹介します。

「六十一名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今、卒業証書を渡しましたが、皆さん一人ひとりの晴れやかで凛とした姿を見て、私も胸がいっぱいになりました。ところで、卒業生として卒業式に臨んでいる今、どのような思いが去来しているのでしょうか。皆さんの成長は特筆すべきものがありました。特に、自分の意志を明確にして朝のボランティア活動に取り組み姿には「すごい生徒たちだ」といつも感心していました。その活動を卒業する今まで継続してきた人たちもいます。継続する意志の強さ、まさに、佐中プライドの典型であり、凡事徹底の姿であると思います。また、制限がある中で実施した修学旅行は、参加できなかった仲間分まで楽しもう、充実させよう、そして、成長しようという思いが伝わる三日間で、中でも宿舎での班会議には驚かされました。一人一人が自分の思いを率直に伝え合い、白熱した議論があったことを覚えています。引率した先生たちも、想定を超えた皆さんの議論に入る隙間もなく、ただ見守るだけでした。私も同様で、この生徒たちはすごい集団になるという確信を持った瞬間でもありません。その期待通りに、三年生の体育大会では、思いを一つにして本番で生き生きと表現する姿が参観してくださった保護者や地域の皆様との一体感を生み、周りの人、全てに感動と元気を与えてくれました。文化祭の三年生の劇「あなたが背中を押してくれたから」では、様々な人との出会いの中で、心の葛藤を抱えながら成長していく中学生の姿を見事に演じてくれました。合唱コンクールでは、心一つにして美しいハーモニーを奏でることができ、三年生の底力と存在感を見事に発揮してくれました。体育大会と文化祭に共通するのは、削り上げる過程で、それぞれの意見がぶつかり合い、苦勞しながらも最終的には一致団結して一つのものを創り上げたということ。途中では、まとまりがなくバラバラになっているとか、悔しくて涙を流しているという話を何度も聞きました。しかし、それら乗り越えたからこそその達成感や満足感、充実感を味わい、絆を深めることができたのだと思います。かけがえのない仲間です。一生大切にしてください。」

卒業生の皆さん。「怒」の心を大切に、自分を信じ、自分の「道」を歩いて行くてください。応援しています。



【「てっぼん」デビュー】
一年生が文化祭で発表した「てっぼん」が、三月三日開催の佐敷城下祭りのパレードに参加し、祭りを盛り上げてくれました。この「てっぼん」は、芦北町の歴史や特産品など芦北町の良さを学ぶ学習の一環として、ゆるキャラをつくって芦北町を盛り上げていくことを考えた一年生が作成しました。今回、祭りの主催者から声をかけていただいたお陰で、「てっぼん隊」デビューが実現しました。今後も、活躍の場が広がることを期待しています。この日は本校の五人の生徒が、お姫様役として祭りを華やいだものにしてくれました。

【佐敷中同窓会入会式】
三月八日、三年生の修了式に引き続き、佐敷中同窓会副会長の平江大八様ご臨席のもと、同窓会入会式を行いました。昭和二十二年の創立以来、今回の六十一名を加え、卒業生は一万九百三十七名になります。多くの先輩方が多方面で活躍されており、卒業生の入会を歓迎しておられます。当日は、平江副会長から、温かい励ましの言葉をいただきました。卒業式の祝辞の中にも本校校歌に触れられる場面があり、同窓生の方々は、母校を大切に、先輩たちの活躍を楽しみにしていただいていることを様々な場面で強く感じます。今年度は、同窓生であり、ノルウエーでバイオリニストとして活躍されている上野清輝さんが、本校の生徒たちだけにコンサートを開いてくださいました。こうした母校を誇りに思う気持ちを高める契機としてもこの同窓会入会式を大切にしていきたいと思えます。卒業生も、伝統ある佐敷中の同窓生として自信と誇りを持ってチャレンジし、大きく羽ばたいてほしいと思います。

あとがき
卒業式が終わり、週末には一年生の修了式があります。今年度も生徒たちの成長はすばらしいものがありました。年度当初、挨拶の音が小さかった一年生が多かった。次第に声が大きくなり、相手に伝わるようになってきました。また、朝のボランティアの中心として活動する皆さんの姿を見るようになりました。最上級生の自覚と、佐敷中の伝統を確実に受け継いでくれています。「心」が変わって「行動」が変わった姿をみてもらいます。(光)